

薩摩の小京都

間違いなくここはその時代の高級住宅地であろう。鹿児島県薩摩半島南の知覧町に、これまで見たことのない低い石垣とその上に、生け垣が設けられた美しい住宅地が続いていた。まるで江戸時代にタイムスリップしたような、南国風の武家屋敷が今もそのまま残されていた。

母ヶ岳の優雅な姿を取り入れた麓一带に武家屋敷と美しい庭園が続くこの地域を国は「重要伝統建造物群保存地区」に選定。更に7庭園が国の「名勝庭園」に指定されている。その中で森氏庭園は池泉式で他は枯山水式となっている。更に「美しい日本の歴史的風土100選」にも選ばれている。

町並は各屋敷が石垣で区切られており、屋敷入口には屋敷内が見えないように屏風岩がある。全国各地にこうした武家屋敷は今もいくつか残されて



ているが、知覧の石垣は綺麗な切石整層積みが中心で、その上に見事な生け垣が清潔感を醸し出していた。このような地域の環境を捉えて「薩摩の小京都」として親しまれている。

その昔、武家政権が続いた日本の歴史は、鎌倉時代から江戸時代末期までの680年。正確には20年溯り平清盛の平氏政権だとすると700年という長い期間。この時代背景の中で今日の日本の礎が築かれたといっても過言でない。

撮影 2012年冬

